

別府 成田市議会議員 ひろたか

成田市の皆さんの ～幸せへの架け橋～として



議会報告 No.3

発行責任者
連絡先

令和7年3月
別府弘隆
成田市美郷台 3-15-2
TEL・FAX 0476-24-4757

会派 / 政友クラブ

所属委員会等 / 教育民生常任委員会

広報広聴委員会・議員団幹事

皆さまのおかげをもちまして、成田市議会議員に初当選してから2年を迎えることになりました。

この間、教育問題をはじめ、市民の皆さんからいただいたご意見を中心にひたすら活動してまいりました。

現在、議員として、純粋にひたむきに、常に市民の方の目線を心がけて活動しております。市議会議員という、最も市民の皆さまの身近な政治家として日々勉強を続け、成田市の発展に貢献していきたいと思っております。

～就学援助費に関する認定基準の見直し～

就学援助費の制度は、経済的な理由によって就学が困難と認められる児童生徒または入学予定者の保護者に対して援助するものです。

生活保護の決定を受けている場合にあっては、準要保護児童生徒と認定し、学校生活に必要な物品や給食費などが支給されます。

準要保護児童生徒の就学援助は、実情に応じて、各自治体が独自に認定基準を定めています。需要額の算出の係数について、成田市にあっては総所得金額ベースの1.3倍としている一方、県内他自治体にあっては総所得金額ベースの1.5倍としている自治体もあります。昨今の社会情勢において、実質賃金の減少に加えて、急激な物価高騰などの影響があることを踏まえると、準要保護の対象となる児童生徒の保護者に対する支援層を拡充することで、当該保護者の義務教育にかかる費用負担を軽減する効果が期待できます。

このようなことから、就学援助の対象世帯を拡充し、義務教育の円滑な実施に資するため、準要保護児童生徒に関する認定基準の需要額における係数を1.5倍に引き上げられます。

係数引き下げによる需要額の目安

世帯構成の例		総所得の目安（1.3倍）		総所得の目安（1.5倍）	
		持家	借家	持家	借家
2人	母 小学生	約167万円	約242万円	約192万円	約278万円
	母 中学生	約178万円	約254万円	約205万円	約292万円
3人	母 幼児 小学生	約208万円	約283万円	約239万円	約325万円
	父 母 小学生	約225万円	約301万円	約259万円	約346万円
4人	父 母 小学生 中学生	約279万円	約355万円	約321万円	約408万円
	父 母 幼児 主学生 中学生	約301万円	約376万円	約346万円	約432万円

中学校部活動地域移行モデル事業

目的

成田市を4つの拠点に分け、各拠点で複数の地域クラブを運営し、生徒数に応じた適正な地域クラブの数、指導者数、活動場所の確保、生徒の移動手段および将来的に持続可能となる受益者負担額を検証します。

さらに地域クラブを、大会参加を目的とする『ステップ型』と趣味嗜好の『エキサイト型』にジャンル分けし、主にステップ型地域クラブに

別府ひろたかのプロフィール

愛称 / ベッピー（命名：教え子） 生年月日 / 1968年1月12日生

学歴・主な実績 《小・中・高12年間皆勤賞》

成田幼稚園・成田市立加良部小学校・成田市立西中学校

成田高等学校【硬式野球部主将 最高成績：関東大会出場】

国際武道大学体育学部体育学科【スポーツ医学専攻・硬式野球部監督代理】

職歴 / 中学校保健体育科教諭（成田中学校・中台中学校 他）

【主な実績】生徒指導部長・学年主任・野球部監督（県上位進出）

成田選抜野球チーム指導（全国大会準優勝）

柔道部監督（関東大会出場）・水泳部監督（県上位入賞）

【主な活動】花崎囃子連代表（下座長）・成田まつり囃子保存会理事

佐原囃子保存会理事・小中学生野球指導者講師

桜松杯（成田高校OB野球部顧問）中学生野球大会会長

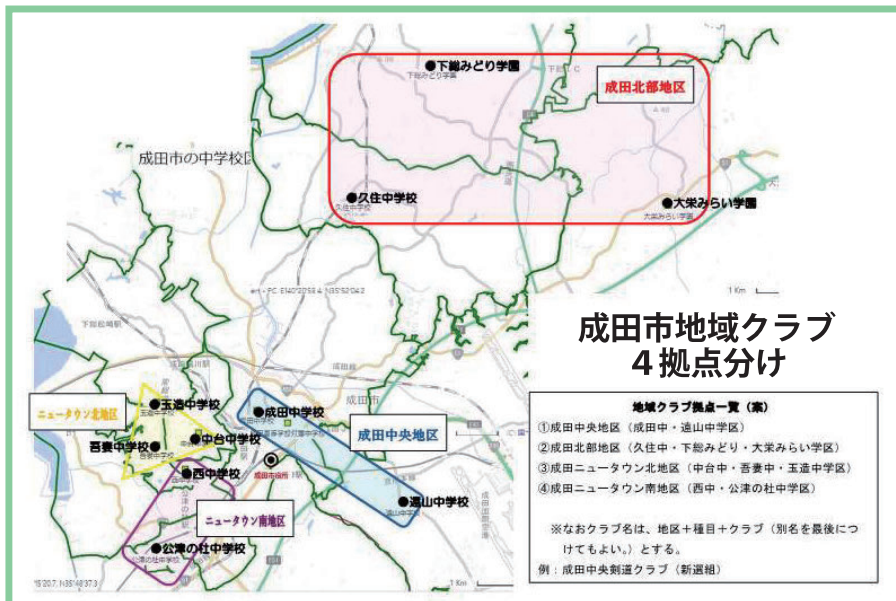
について、大会などに参加した際に生じる課題についても検証し、現状の活動に近い環境構築について検証します。なお、モデル期間中は受益者負担は実施しません。

4拠点方式の背景

- 少子化により、今後、学校単位でチーム編成などが難しくなることを考慮し、学校という枠を超えた拠点を編成する必要がある。
- 学校を超えた枠を編成する際、現在、実施されている小中体連主催の大会参加要件である『同一校の子供が違うチームに所属できない』いわゆる合同チーム編成の要件を満たす必要がある。
- 活動場所までの移動を考えた際、子供たちおよび保護者に過度な負担を与えないためには、近隣学区同士で統合化を図った方がよい。

今後のスケジュール

- 令和7年9月小中体連主催の新人戦終了後より順次、令和7年度モデル事業『4拠点方式地域クラブ』に移行します。現状開催されている大会参加を目的とした『ステップ型地域クラブ』の稼働に向けた検証を行います。ステップ型地域クラブに移行しない種目は、原則部活動として活動します。
- 令和8年4月より、運動系部活動すべてを受益者負担による地域クラブとして稼働開始します。



3月議会の一般質問から



道路の陥没について

質問

1月28日、埼玉県八潮市において大規模な道路陥没事故が発生しました。陥没の原因は、経年劣化で破損した下水道管に土砂が吸い込まれ路面下に空洞が発生したとのことでした。

2月11日には、千葉県大網白里市で道路が陥没し、水が噴き出す事故がありました。地中に埋設された上水道管が破損したことが陥没の原因とみられています。2016年には、福岡県のJR博多駅付近で縦横30メートル深さ15メートルの道路陥没事故。2024年9月には千葉県市原市の国道16号線と広島県広島市で大規模な陥没事故が発生しました。千葉県内でも道路の陥没は珍しくない状況です。そこで、道路の陥没について4点質問します。

1点目は、市内道路における陥没事故の発生件数の推移について、市道・県道・国道それぞれ過去5年間で、何件の道路陥没事故が発生しているのか、お聞きしたいと思います。

2点目は、市内の道路陥没事故の原因にはどのようなことがあるのか。また原因の割合についてお聞きしたいと思います。

3点目は、市内道路の点検の方法と頻度について教えていただきたいと思っています。国道や県道も含めてお聞きしたいと思います。

4点目は、今後の取組について教えていただきたいと思っています。陥没事故防止に向けて、本市では、今後どのような対策を考えているのか、新たな取り組みについてもお聞きします。

市長答弁

発生件数の推移についてであります。本市及び国や県が管理する道路については、過去5年間で、通行に影響を与えるような陥没は発生していませんが、市道で小規模な陥没や空洞については、令和2年度が35件、令和3

今議会において一般質問を行いました。執行部との質疑内容について掲載しましたので、ご覧ください。

生しているということです。道路陥没事故の主な原因は、道路の側溝などの排水施設や上下水道管の劣化や腐食により破損し土砂が侵入したり、飛ばされたりすることだそうです。専門家によると日本の上下水道管は、ほとんどが戦後の高度経済成長期につくられたもので60年が経過してしまっています。上下水道管は20年から30年を過ぎると老朽化といえるそうで、年々傷みが出やすくなり、毎年道路の陥没事故は増えていくだろうと予想されています。日本では、いっどこで道路陥没事故が起こればおかしくない状況になっています。国・県との連携による整備が急務です。

学校遊具について

質問

保護者の方や子供達、学校関係者から長い間遊べない遊具があるのご意見が数多くあります。私の自宅近くにも小学校があり、滑り台に長い間使用禁止テープが張り巡らされて、現在も使用停止が続いております。話を聞くと3年以上も使えない状態であるということです。学校遊具について4点質問をさせていただきます。

1点目は、遊具の必要性についての考えをお聞きしたいと思います。学校に設置してある施設は教育のためにあるものです。遊具は、ただの遊び道具ではなく、どのような教育効果があるのかをお聞きしたいと思います。

2点目は、本年度の修繕件数について教えてください。また、年度当初は、41施設が使用停止となつていたということでした。現在までに完了している施設数と今後の修繕も含めて、本年度中に修繕が完了する施設数をお聞きしたいと思います。

3点目は、現在の使用停止件数を教えていただきたいと思っています。学校では、学校施設の日常点検に加え、毎月安全点検日を受けて安全確認をしています。遊具においては、年に一度の専門業者による点検も行っているということでした。更に使用停止になった施設を含め、お聞きしたいと思います。

4点目は、今後の修繕計画についてです。これまでは特に修繕計画を策定することは困難であることから、計画性を持った修繕にはならないとのことでした。今後の修繕をどの様に進めていくのかをお聞きしたいと思います。

教育長答弁

遊具の必要性についての考えは、子どもたちが冒険や挑戦といった遊びを提供し、その中で子どもたちは危険予知、回避を学び

また、1年生から6年生と大きく年代の異なる子どもたちが交わり遊びを通じて社会性や道徳心を育む機会のあると認識していることから、必要の高い学校施設の一つであると考えます。

次に、本年度の修繕件数についてであります。橋賀台小学校のジャングルジム1施設と玉造小学校の木製遊具1施設を撤去するとともに、玉造小学校の鉄棒3施設の修繕を完了しております。また、本城小学校の雲梯1施設のほか、児童に人気が高く、学校からも強い要望のあったブランコにつきまして、加良部小学校、向台小学校、吾妻小学校、中台小学校4校において、計5施設の修繕を行っており、完了したものと合わせ、本年度中に合計11施設の修繕等を終了する予定です。



次に、現在の使用停止件数についてですが、小学校及び義務教育学校の遊具約190施設のうち本年度当初は41施設が使用停止となつており、点検の結果により新たに1施設が使用停止となりましたが、修繕等により本年度末には31施設まで使用停止件数が減少する見込みです。

次に、今後の修繕計画についてですが、使用停止となつて残りのブランコの修繕を進めるとともに、ブランコ同様に児童に人気の高いすべり台の修繕を進めてまいります。遊具全体の老朽化に伴い、毎年新たに遊具が使用停止となるなど、修繕等が必要とする遊具数は増加傾向にありますが、本定例会に遊具の修繕等のための拡充した予算を提案していきますので、使用停止状態の早期解消に向けて取り組んでいきます。

ひろたかのポイント

6月議会の答弁では、市内校において41施設2割以上の遊具が使用停止になつており、令和3年から5年の間でも使用停止が15施設増加しており、修繕が追い付かない状態で、このままいくとほとんどの施設が使用停止になることが懸念される状態です。学校遊具は教育効果のあるもので、私は生きた教材であると考えています。数年にわたり使用停止になつていく遊具を見て、不安と残念な気持ちでいます。どんなに教職員の方々が指導したとしても幼い子供達ですから遊んでしまう可能性もあり、安全面での不安があります。早急な整備が必要であると考えます。